

2020 年度 茨城キリスト教大学 FD 報告書

授業改善委員会

(2021 年度)

2021年6月3日

学長 上野 尚美 殿
文学研究科長 David C. Yoshiba 殿
生活科学研究科長 石川 祐一 殿
看護学研究科長 松永 恵 殿
文学部長 飛田 隆 殿
生活科学部長 山中 俊克 殿
看護学部長 栗原 加代 殿
経営学部長 申 美花 殿

授業改善委員会

委員長：生活科学部心理福祉学科 岩崎眞和

平素より授業改善委員会活動にご理解とご尽力賜り感謝申し上げます。本学「授業改善委員会規程」第3条の4)により、以下に2020年度に行われました各研究科、学科の授業改善活動についてご報告致します。COVID-19の感染予防の徹底とオンライン授業展開が急務となった2020年度は、これまでとは異なる形式で実りあるFD研修が実施されましたが、今後も委員会として本学の授業改善に資すると思われるFDの企画等を提言したいと考えております。

文学研究科

【英語英米文学専攻】専任教員7名（学長のぞく）

題目：大学院の授業の展開に向けて～ディスカッション～

内容：遠隔授業実践から見た学生の学びに関する問題を共有し、今後の大学院の遠隔授業のデザインや実施方法を討論する。

日時：2020年11月12日（木）17:40-19:10

場所：茨城キリスト教大学11号館309教室

参加人数：文学研究科英語英米文学専攻専任教員7名

文学部

【現代英語学科】（専任教員11名（学長のぞく））

題目：Microsoft Teamsの新機能について

内容：Microsoft Teamsの新機能を踏まえて遠隔授業の実施方法の改善案について検討

講師：荻津智絵（本学情報センター職員）

日時：2020年11月12日（木）17:40-18:20

参加人数：現代英語学科教員12名（オンライン参加者含めて31名）

2020年度FD研修会のご案内

オンライン教育の課題と今後の展望

2020年11月12日(木) 17:40~19:10

茨城キリスト教大学

11号館 309教室

or Teams (Unipaで会議のURLをご確認ください)

●第1部

17時40分~18時20分

「Microsoft Teamsの新機能について」

講師 荻津智絵 (情報センター)

内容 Microsoft Teamsの新機能を踏まえ遠隔授業の実施方法の改善案を検討します。

●第2部

18時30分~19時10分

「大学院の遠隔授業の展開に向けて」

ディスカッション

内容 遠隔授業実践から見た学生の学びに関する問題を共有し、今後の大学院の遠隔授業のデザインや実施方法を討論します。

お問い合わせ

茨城キリスト教大学
〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1
TEL: 0294-52-3215 (内線2600)

【児童教育学科】(専任教員 25名)

1. テーマ: 「FD再考」「21カリ新設『(Pe)基礎演習』構想」
2. 担当: 授業改善委員 池内 耕作
3. 実施日時: 2021年3月16日(火) 14:30~16:00
4. 会場: 3号館 3306教室
5. 概要

(1) FD再考

大学認証評価結果をふまえ、内部質保証の観点から今後、どのようなFD活動が必要となるのかについて、学科教員の再認識を図った。特に、毎年度の目的志向型 Planning と、その結果に係る Check (Assesement) に基づき、「必要なFDを客観的に措置していく」ことの必要性について確認した。あわせて当該年度の目標・目標値、その計測方法について再確認した。

(2) 21カリ新設『(Pe)基礎演習』構想

新設「基礎演習」を学科における初年次教育の要として位置付けるため、

- 個別バラバラのクラス運用を廃し、全担当教員による共通・同時のTT方式運用とすること。
- 全7クラスの各教室をTeamsで接続し、「対面とオンライン」「アナログとデジタル」の2重の意味でのハイブリッド型授業を構築し、「教室は分かれていても皆で同じ内容・課題に取り組んでいる」という雰囲気と意識を作

り出すこと。

- 担当教員持ち回りによる一斉授業（授業前半）と、集団討論や発表などの課題に取り組むクラス別アクティブ・ラーニング（授業後半）との2部構成を基本とし、全員が共通して学ぶ知識・技能事項と、少人数グループ内で切磋琢磨してゆく思考力・判断力・表現力事項との双方の充実を図ること。
- 教員どうしが互いに互いの講義部分をすべて視聴することで、教員個々のスキルアップを同時に図り、「教員チーム」として共有できる事柄、あるいは考え方の違いとして学生に明確に提示しうる事柄を見極めてゆくこと。

等を要点とする構想を解説した。PLAN段階で設定した目標・目標値が達成されたかを含め、次回のFDで初年度の実施報告を行い、今後必要とされるFDの内容について明確にすることを予定している。

6. 参加者

- ・ 児童教育学科専任教員 25名（後日録画を視聴した教員を含めて全員）
 - **【代表的な感想1】** 学生の「主体的で深い学び」「能動的な学習」を促すことができたかどうか、「非認知能力を、どのように測るか」という問題に関してお話を伺う中で、春休み中に面白く読んだ、マーガレット・カー『保育の場で子どもの学びをアセスメントする』を思い出しました。今日のお話では、授業評価、学生の達成感の高い授業について、担当者の話を聞くと提案されていましたが、各人の授業の中で一人の学生がこのような伸びてきた（とりあえずは、一人ひとりの顔の見えるゼミなどが始めやすいと思います）。レスポンスペーパーなどで、くっきり思考の深まりの見える学生についてもできるかと思います」という「学びの物語」の報告を聴くことが、学びの深まりを見る目を養う場にもなると思います。
 - **【代表的な感想2】** Peの基礎演習のやり方を伺いまして、教員側に多少プレッシャーがかかるなど感じつつも、オンラインを併用して同じ授業を別教室（各グループ）で受けられるというのは、とてもいいアイデアだと思いました。基礎演習のような内容かつ特殊な学び方は、担当者によって指導のばらつきが生じやすい科目だと思いますので、授業の質を保证するという点で、大変有効だと思いました。また学生たちがオンラインに慣れてきたならば、学年全体での一体感も味わえるようになり、上手くいけばとても盛り上がる授業になるのかなとも思いました。以上、教える側の立場として不安要素はありますが、授業方法としてはとても魅力を感じました。

【文化交流学科】（専任教員 12 名）

今年度は、コロナ禍の中前期は全てオンライン授業となった。そんな折、これまでの交流が深い韓国の韓端大学の先生方が講師となってくださり、ZOOM を使ってオンライン授業に関する勉強会を開いて頂けることとなった。ICT 先進国である韓国のオンライン事情を学ぶこの企画を本学科のFDとして位置づけ、かつ両校の文化交流を促進することを目指した。

◆韓端大学とのオンラインセッション

日時：2020 年 10 月 23 日 10：00～12：00

講演：韓国の大学におけるオンライン・ICT の対応と、韓端大学校の現状と課題

内容：約 1 時間の講演の後、30 分程度の質疑応答

講師：金泰壽

韓端大学航空融合学部グローバル言語協力学科教授 兼国際交流支援処部長
李尚勳

韓端大学校教育革新院 准教授

参加：（日本側）学科教員 12 名，他在学生有志。（韓国側）韓端大学校教員数名。

得られた知見：

- ① 韓端大が良い例のように、韓国の大学のICTは日本よりもかなり進んでいて、日本側（本学側）が学ぶ点が多い。
- ② 韓端大は自らの大学に合わせた形でオンラインソフト等を改良していること（授業ではZOOMと組み合わせて多様な展開をしていた）。
- ③ 学生の出欠管理などが自動化されていて、教員にとっては使い勝手が良さそうであった。
- ④ 教室と自宅からの両方からオンラインで繋ぐハイブリッド方式については模索中であった。
- ⑤ 学生がどう自主的にオンラインを活用し勉強・研究を続けて行けるかに、オンライン教育の中心的主題と課題を見出していた。

生活科学研究科（＝全学FD）

【生活科学研究科】

1. 実施目的：

前期がすべてオンライン授業展開となったことを受けて、今後の効果的な遠隔授業展開に向けて、既に多くの実践経験を有し、かつ大学初年次教育に造詣の深い山本先生を招へいしFDを行う。なお本FDは当初生活科学研究科での合同開催予定であったが、最終的に授業改善委員会が後援する形で全学FDと位置付けて実施した。

2. 概要：次ページ資料に提示した。加えて、本FDはポータルサイトで閲覧可能

3. 考察：

遠隔授業展開をする以前に、教員同士、学生同士が相互に自ずと ICT を学び合う関係構築に寄与する仕掛けづくりが印象的であった。ICT 機材が整うだけでは十分な浸透と発展は困難である可能性が高く、今後時間をかけて本学でも山本先生が構築されてきた ICT を取り込んだ教育を展開する土壌となるシステム設計の必要性を痛感した。なお本学でも先進的な ICT 教育を展開している 3 人の先生方に深謝する。

大学院生活科学研究科 情報センター共催
2020年度FD研修会のご案内

第1部
効果的な遠隔授業展開に向けて



北陸大学 経済経営学部
学部長 山本啓一先生

所属学会
初年次教育学会（理事）
大学教育学会 他

初年次教育、キャリア教育をご専門とし、
他大学にてFD研修等の招待講師として
ご活躍されています。

開催日時
9月22日(火)
14:20～15:50 (4時限)
第1部 14:20～ 第2部 15:20～
Teams（遠隔）
or 7401教室

第2部
**本学における
遠隔授業の試み**

F科 大貫 和恵 氏
N科 櫻本 秀明 氏
W科 國見 充展 氏

生活科学研究科以外の先生方や兼任講師の先生方もご参加いただけます。所定のFormsよりお申し込みください。

生活科学部

【心理福祉学科】（専任教員 13 名）

本学科では、2019 年度末冬季に本学情報センターとの共催を企画していた FD 活動を上述の大学院生活科学研究科 FD（＝全学 FD）へとスライド実施とし、替わって本学でサポート体制が整っている Microsoft office の teams（学科チームチャネル）を用いて、年度を通じて各教員が遠隔授業や日々の講義等を通じて抱いた疑問や学生からの質問等について逐次ディスカッションできる環境を設定した。

具体的には、「障がい」と「障害」の表記に関する課題、日本人の幸福感や well-being の特徴、そしてコロナによって困難になったそれまでのマークシートではない forms を用いた授業改善アンケート項目内容などについて活発な議論が展開した。結果として、学生の予習、復習時間をリッカーで尋ねるのではなく現状把握を目的に自由記述で回答を求める案が提出され、2020 年度実施の授業改善 forms アンケートに反映した。

【食物健康学科】（専任教員 16 名）2 名欠席

2020 年度食物健康科学科 FD 研修会

日時 2021/3/9 10:30～12:30

場所 7 号館 7101 教室

【内容】

2020 年度のオンライン授業について、4 名の教員から実践報告をしてもらい、本学科におけるオンライン授業のあり方に関して情報共有と評価を行った。また、今後の検討事項である ICT 教育について、今年度実施したオンライン授業の取り組みをどのように活用できるか、グループディスカッションを通して課題抽出と意識の醸成を行った。

【まとめ】

前半、4 名の教員よりオンライン実験・実習、オンライン座学において様々な取り組みや工夫について報告があった。特にオンラインツールの活用方法や機能について詳しい報告があり、教員間で情報共有が図られた。また、オンライン授業におけるデメリットや今後の改善点についても言及がなされた。後半、ICT 教育についてグループディスカッションがなされ、本学科における ICT 教育の取り組みに対する考え方や意識、認識について再確認がされた。また今後の ICT の活用に対する展望や課題抽出についても議論がなされ、学科内で意識の醸成がされた。

【今後の課題】

ICT 教育については、学科内における ICT に関する情報の不足と ICT 教育に対する教員間での認識の違いが大きいため、今後も継続的に協議を行い、意識の醸成や統一を図る必要がある。

看護学研究科

内容：「論理的思考を高める研究指導 ―看護職生涯発達学の視点から―」

日時：2021 年 3 月 10 日（水）15：00～17：00

実施形式：teams によるオンライン講演会

講師：佐藤 紀子 先生

慈恵会医科大学医学部看護学科基礎看護学教授

慈恵会医科大学大学院看護学専攻教授

慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究センター長

前・日本看護学研究会理事長

参加者：教員 26 名

学外参加者 31 名（医療機関、教育機関、その他）

結果・まとめ：

今年度は「論理的思考を高める研究指導：看護職生涯発達学の視点から」というテーマで、慈恵会医科大学医学部看護学科基礎看護学/慈恵会医科大学大学院看護学専攻・佐藤紀

子教授をお迎えして、ご講演いただいた。講演では、学生の論理的思考を育むために、学生自身の視点や力を大切に、リサーチクエスチョンを徹底的に検討して前提から結論を引き出す、自らが論理的に説明できているかどうかを問い、録音してみるなど、佐藤先生の豊富な研究と教育実践のご経験に基づく具体的なお話を伺うことができた。

例年、本研究科FD講演会は、臨地実習施設や県内の看護系学校へご案内をしているが、例年より多い7施設・約30人の学外の教員や看護職の方々に参加いただき、このテーマやオンラインによる開催のニーズの高さを感じた。

年度末のあわたたしい時期だったが、論理的に考える力を育む教育の本質を考えさせられる貴重な時間となった。

2020年度

茨城キリスト教大学看護学研究科FD

論理的思考を高める 研究指導

—看護職生涯発達学の視点から—

日時 2021年
3月10日 水 15:00-17:00

Teamsによるオンライン配信（参加費無料）
学外の方につきましては、事前申し込みをお願いします。お申し込みいただいた後、ご案内メールをお送りさせていただきます。

講師 佐藤 紀子 先生

慈恵会医科大学医学部看護学科基礎看護学教授
慈恵会医科大学看護学専攻教授
慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究センター長
元日本看護学教育学会理事長

本講演会へ参加をご希望の方は下記のメールアドレスへ
申し込みをお願いします。締め切り：2月20日まで。

お申込みお問い合わせ

茨城キリスト教大学看護学研究科事務局
メールアドレス gs-kango@icc.ac.jp
電話 0294-52-3215 (代) 内線3610

看護学部

【看護学科】（専任教員29名）

テーマ：2022年度新カリキュラムに向けてのワークショップ

—「地域・在宅看護論」をカリキュラムにどう取り入れるか—

日時：2020年11月28日（土）9：30～11：30

参加者：看護学科教員28名

テーマ選定の背景：

今回の第5次指定規則改正のポイントは、①統合分野というくくりがなくなり、専門分野が共通のくくりとなること、②「在宅看護論」が「地域・在宅看護論」となり、「基

礎看護学」の次に位置づくこと、③臨地実習の23単位は変わらないが、内容および単位が決まっているのは17単位で、残る6単位分をどのような実習にするかについて、学校が裁量を持つこと等である。

改正の背景には、高齢者のみの世帯が急増している等から、看護師は病院中心でなく、地域に活動の場を移して役割を発揮する必要性が挙げられる。すなわち今後は、看護の対象者がどこにしようと、等しくその力を発揮することができる能力が求められるのである。地域で暮らすあらゆる「生活者」に焦点をあてたことから「地域・在宅看護論」の創設に関わる考え方が非常に重要であると考えた。

今回の改正に基づいた新カリキュラムの作成にあたっては、教員がよく話し合い、科目間の連動を意識していく必要がある。そこで、コロナ禍に見舞われた本年は、外部講師の講演という形式ではなく、学内教員間で本テーマに基づくワークショップを実施することとした。

目的：領域を問わずすべての教員が、在宅および地域を意識した基礎教育に取り組み、創りあげるために、知恵を出し合い準備状態を整えること。

プログラム：

導入：ワークショップの趣旨と流れの説明

知る・創る活動：3つの「問い」ごとにグループに分かれて実施

*3つの「問い」

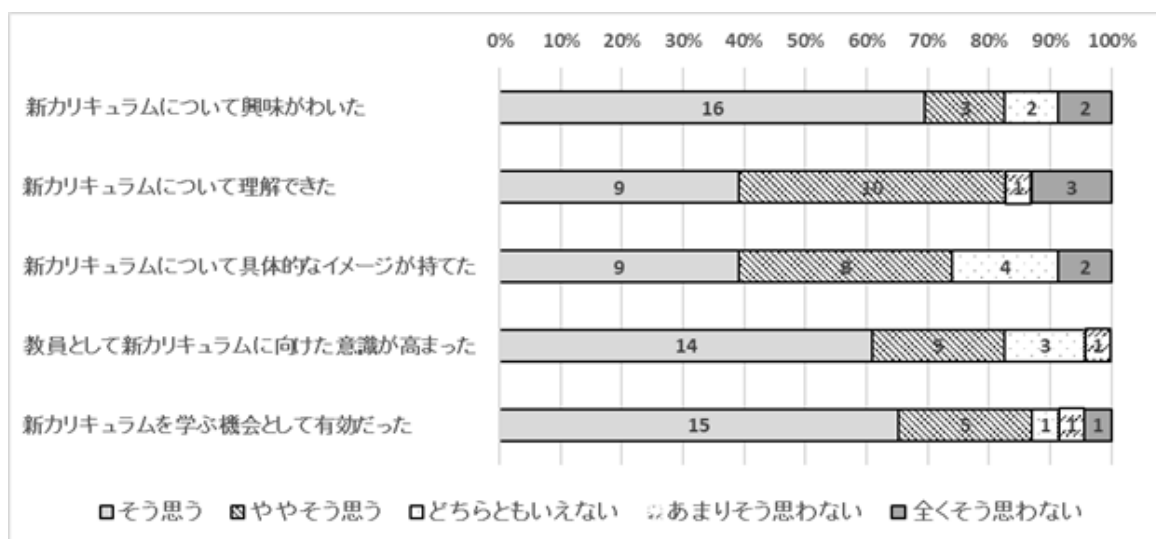
- ① 『『地域・在宅看護論』の理解』
- ② 「対象を『生活者』として捉えるために必要なこととは」
- ③ 「地域や本学の中でどんな実習が工夫できるか」

まとめ：検討内容・アイデアの発表、学びや気づきの言語化と共有、振り返り

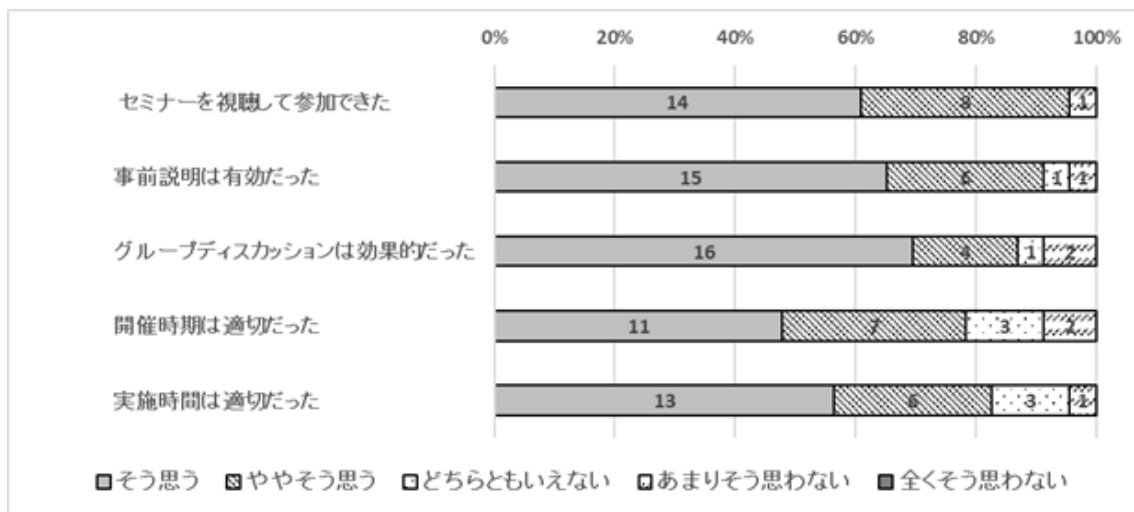
結果：以下のアンケート結果より、概ね目的にかなった内容であったと評価した。

実施後アンケート結果(n=23, 回収率 85.2%)

1. FD 研修『2022 年度新カリキュラムに向けてのワークショップ～「地域・在宅看護論」をカリキュラムにどう取り入れるか～』参加について



2. プログラムについて



3. 自由記述より（抜粋）

- ・他領域の先生方とのディスカッションは情報交換や共有できる場になり、今後「地域・在宅看護論」の科目を進めていくうえでの連携につながると考えた。学生を育成する方法はたくさんあれども方向性は同じにしていく必要があるため有意義な時間だった。
- ・久しぶりに教員間で考えを共有でき、多様であったが、一方で共通するところも捉えることができ、有意義だった。今回は教育内容に関する議論が中心であったが、現前する学生が学び、成長していく様を踏まえた議論も必要である。

経営学部

【経営学科】（専任教員 12 名）

1. テーマ

ハラスメント防止のためのアンガーマネジメント

・概要

授業やゼミ活動における学生とのやり取りの中で、無意識のうちに過剰な叱責をしてしまい、それが学生との関係性を悪化させてしまったり、学生の就学意欲を削いでしまったりすることがある。学生に対する怒りのストレスがさらなる怒りを生み、それがアカハラ、パワハラ、モラハラを引き起こしかない。そこで本研修では、「怒り」の感情と上手に付き合い、より良い人間関係づくりを目指すアンガーマネジメントを身に付けることを目的とした。

・講師

一般社団法人 日本アンガーマネジメント協会

講師 阿井 優子氏

・実施日時

2020 年 1 月 7 日（火） 12:40~14:10

- ・会場

本学 11 号館 11206 教室

- ・内容

本研修では、怒りの感情をどのようにコントロールすればよいかという観点から講演いただいた。怒りは、人間にとって自然な感情の 1 つであり、怒りのない人はいないし、怒りをなくすことも不可能であるという前提の下、怒りはどのような感情から生まれるのか、怒りを抑えるための具体的な方法論について説明があった。

- ・参加者

12 名（大久保隆弘，申美花，浅野義，三上司，掛川富康，今口忠政，長島正浩，古井仁，米岡英治，栗原正樹，澤端智良，田口尚史）

2. テーマ

『現場において求められること』～グローバルな環境で働くこと～

- ・概要

グローバルな視点でのキャリアを形成を中心に、女性の働き方やキャリア形成についてについても、ご自身の経験を踏まえてお話し頂き、グローバルな人材に必要とされるものは何かを知ること、教育の質の向上につながることを期待出来る。

- ・講師

野村証券株式会社人事戦略部人事戦略グループ

ヴァイスプレジデント 渡部 愛子 氏

- ・実施日時

2021 年 1 月 26 日（火） 16:00～17:30

- ・会場

オンラインのみで実施

- ・内容

専門職、ベンチャー、日系企業、外資系企業、大手企業、海外勤務といった様々なキャリアを通じて、ご自身が感じたそれぞれの場面において必要とされる能力についてお話し頂き、学生指導の指針となる内容であった。また、野村証券の具体的な海外勤務等に関する制度や実態についてお話し頂き、TOEIC 等の具体的な数値目標等も理解出来た。

- ・参加者

10 名（申美花、大久保隆弘、三上司、今口忠政、長島正浩、古井仁、栗原正樹、澤端智良、田口尚史）

全学教養課程センター

- ・ 実施日時：2021 年 2 月 6 日（土） 13:30～15:00
- ・ 実施形式：Zoom によるオンライン開催

- ・ **講師**：三橋翔太氏（文学部児童教育学科）・荻津智絵氏（情報センター）
- ・ **参加者**：全体で 17 名：
内訳：全学教養課程所員（教員）9 名：江尻（報告者）、小幡、有澤、中島、三橋、ヨシバ、小西、田口、黒澤／他学科教員 4 名：岩崎、原口、三輪、松永／兼任講師 1 名：所／職員 3 名：倉田（学務部）、荻津（情報センター）、大内（公務員試験対策室）
- ・ **実施の背景と目的**：
新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020 年 4 月より本学でもオンライン授業が開始された。多くの教員にとって、オンラインによる授業実施は、初めての試みであり、Teams の操作方法の習得にはじまり、動画コンテンツの作成や、ライブ配信等、多くの業務に追われる日々であった。しかし同時に、こうした活動を通して改めて、大学での授業の在り方について考える機会となり、多くの学びや気づきのあった一年でもあった。また、教職員同士で多くの学び合いのあった 1 年でもあった。本研修では改めてこの 1 年のオンライン授業を振り返り、各々の教職員が苦労した点や工夫した点、また、今後の課題などについて意見交換を行うことを目的とする。
- ・ **実施の流れ**：
第 1 部では、三橋翔太氏（文学部児童教育学科教員）と荻津智絵氏（情報センター職員）より、オンライン授業に関する話題を提供いただいた。第 2 部では、参加者が 3 人ずつのグループに分かれ、意見交換を行った。最後に、2 名の話題提供の内容および、グループでの意見交換をふまえ、全体討論（質疑応答）を行った。
- ・ **第 1 部：話題提供**：
 - ・ **三橋翔太氏：「オンデマンド型授業の実践内容」**：
オンデマンド型授業の実践内容について報告が行われた。まず、オンデマンド型授業の利点として、自分の授業を客観視できる、学生が授業後に行った自学自習をふまえた学生の感想が聞けること等が挙げられた。また、難しかった点として、適切な授業時間をどう設定するかということや、授業準備の負担の増加、著作権の問題などが挙げられた。また、今後検討すべき課題として、学生の受講態度の差の問題、インタラクティブな要素をどう取り入れるかなどが挙げられた。最後に、オンデマンド、ライブ配信含めて、オンライン授業全体に関わる課題が挙げられた。
 - ・ **荻津智絵氏：「Microsoft Teams を活用したオンライン授業について」**
はじめに Teams の基本的な機能（会議の開催、授業の実施方法等）について紹介された。次いで、最近追加された機能や、変更点に関する説明がなされた。その中で、オンラインでの試験の実施方法（Forms のクイズ機能）や課題の提示の仕方等、グループセッションの作成方法、インサイト機能等について詳しく解説が行われた。
- ・ **第 2 部：グループによる意見交換**
グループでの意見交換：参加者が 3 名ずつのグループに分かれて、オンライン授業での利点や問題点、課題などについて意見交換を行った。そのあと、各グループの代表者が、意見交換の内容について報告し、これを参加者全員で共有した。

- ・ **全体討論**

小グループでの意見交換会や話題提供をふまえ、質疑応答と討論が行われた。具体的には、実習授業をオンライン授業で行う場合の工夫や課題、試験時の工夫、また、UNIPA と Teams の併用の際の課題、学生への配慮等について話し合われた。

- ・ **参加者による研修の振り返り—今後の授業改善・FD 研修会に向けて—**

研修終了後に、参加者より得た、本研修への感想や意見を以下に紹介する。これらを、今後の授業改善や、FD 研修会の企画に役立てていきたい。

全体的な感想：講演という形ではなく「懇話会」という形式であったのがありがたかった。普段、他学科の方とオンライン授業について意見交換する機会もなかなかないので、貴重な時間が得られた／オンライン授業は弊害もあるが、私自身にとって勉強になる部分も多かった／懇話会の形はやはり良い。大切な情報が一気に吸収できた／オンライン授業に向けた（以上、教員より）／先生方のご苦労がわかった。来年度に向け、パワーポイントを使った基本的なオンライン授業の実践例など教えていただけるとありがたい／先生方が試行錯誤され、悩みながらも工夫して授業をされている様子がわかった。色々配慮する点もあることにも気づかされた。

今後に向けての課題や改善案：教員同士で意見交換や情報交換できる場所、あるいは工夫などをみせてもらえる掲示板のようなものがあると便利だと思う／チームの情報のアップデートや、インサイト機能もそうだが、学生の PC 越しでの授業への参画度をモニターしていく必要があるだろう。カメラオン（学生側の顔を画面で見せること）に関する大学としての意向集約と、学務から学生・教職員に一定の方針のアナウンスは確かに必要かもしれない。自分自身はすべて、カメラオフを許容してきたが、大学としての方針が定まればそれに準じるし、それを理由に学生にも方針を示すことができる／学生に「理論（総論→各論）→実践」という思考がなく、「体験→理論」の順で学ばせているので、オンライン上でいかに交流体験させていくのが自身の課題だと思った／当方の担当科目のほとんどが PC 実習で、オンライン、ハイブリッドに関わらず、特段困っていることがないので、あまり参考にはならなかった。平時からほとんどの科目ごとにオンデマンド資料（科目ごとの Web ページ）を用意してあったのも幸いしている。情報交換は実験系・実習系・講義系（人文系・社会系・自然系）などに分けて行った方がよいと考えた。

話題提供者による感想：荻津さんからの insight の話とヨシバ先生の動画でのテストの話は興味深く、より深く知りたい内容だった／Teams の機能の話だけでなく、授業でこの機能をこのように使うと効果的かもしれないという話ができるとうまいと思うが、なかなか自身が授業をやっている立場でないで難しさを感じている。本日の FD 懇話会では、先生方の意見を伺うことができ、参考になった。今後もこのような機会があると、自身にとっても大学にとっても有意義だと思う。

以上